

# 特記仕様書 1

(No. 1～28 全対象車両)

## 1 ドライブレコーダー装着

以下の要件を満たすドライブレコーダーを装着すること。

- 車両の前方（水平方向 100° 以上、垂直方向 60° 以上）を映像記録として残すことが可能であること。
- 映像は、交通事故発生の際の証拠として十分な画質で撮影でき、また閲覧できること。
- 日付及び時刻を記録可能なものであること。
- 音声録音可能なものであること。
- 車両エンジンの始動と連動で作動開始し、エンジンを切ることで作動終了すること。
- 始動中は常時録画タイプのものであり、記録媒体一枚で HD 撮影モードにて 12 時間以上継続録画可能なものであること。
- LED 信号機と同調しない fps で撮影可能であること。
- 記録媒体は、SD カード等のレコーダー本体から容易に取り外し可能なものであること。
- 記録媒体をパソコン (Windows10Pro) に差し込むことにより、映像記録の閲覧が可能であること。なお、閲覧用ソフトが必要な場合は、これもセットで納品すること。
- 映像記録を外部提供する場合を想定し、記録データについて必要な部分のみ加工により切り取りできるもの、もしくは最初から数分単位での個別ファイルとして映像記録が保存されるものであること。
- パスワード設定が可能であり、レコーダー本体においても記録媒体を差し込んだパソコン等においても映像記録を閲覧するためにパスワード入力が必要であること。
- パスワードは自由に変更可能なものであること。
- 記録媒体やレコーダー取付用具等の消耗品については、乙の負担によるものとする。

## 特記仕様書 2

(No. 2 庁舎管理課、No. 3 東区総務地域振興課  
No. 14 灘崎支所、No. 23 一宮地域センター、No. 28 吉備地域センター)

### 1 放送設備

- ・拡声器（アンプ20W、マイク1本、スピーカー10W×2）、再生装置（SDカードレコーダー搭載）を取り付けること。

### 2 屋根

- ・小型高性能スピーカーを前後方向に向けて取り付けること。

### 3 その他

- ・取付に際しては、防水、防振、視認性を考慮すること。またスピーカーについては、車高が高くなりすぎないこと。

(参考車両)



特記仕様書 3  
(No.10 中央図書館)

※現行車両と同仕様の車両となること。

#### 1、屋根

- (1) 小型高性能スピーカーを前方、後方に向けて取り付ける。  
＜留意点＞
  - ・車内に雨水が浸入しないこと。
  - ・スピーカーのために車高が高くなりすぎないこと。
- (2) 車内ハイルーフ部に作業用アルミ製テーブルを格納できる棚を付ける。
  - ・車内にテーブルが落下しない構造とすること。
  - ・現在使用しているテーブルのサイズは900x600x70mmだが、このサイズのテーブルが余裕を持って収納できること。
  - ・極力、ルームミラーの視野の妨げにならないように取り付ける。
  - ・車体への固定はボルト・ナットにて、振動等で棚が落下しないように取り付ける。

#### 2、側面及び後部扉まわり

- (1) 側面扉の開放時に、扉を固定するストッパーを取り付ける。  
また、雨水が車内に降り込んで本が濡れないように、車体側面に雨除けを付ける。
- (2) 後部扉の開放時に雨水が扉を伝って車内に流れ込まない構造にする。
- (3) 後部扉中央に大型反射鏡を取り付ける（バックモニター設置の場合は不要）。

#### 3、床

- (1) 高さ900mmの両面書架を取り付けた際、書架の最上部が前面ウインドウの上端より150mm以上低くなる低床構造にする。
- (2) 後部荷台は長さ620mm、幅390mmの書籍運搬箱（市有物）を3箱積載できること。

#### 4、書架

- (1) 材質は堅牢で、ねばり強く、できるだけ堅い金属を用いること。  
＜留意点＞
  - ・鉄板なら1.8mm～2.0mmの厚さを確保すること。
- (2) 車体色に合わせ、白色系で塗装すること。
- (3) 車体床面にボルト・ナットにて取り付けること。  
＜留意点＞
  - ・修理、点検などのため、取り外しが簡単にできること。

- (4) 溶接部分は堅牢に、また切断部切り口、表面等は面取りを行い、幼児等にも危険でない仕上げにすること。
- (5) 書架内面はネジ、溶接、折り込み等の突起のない仕上げにし、図書が出し入れしやすく、また傷つけないようにすること。
- (6) 書棚は、すべて傾斜を10° つけること（手前側を高くする）。
- (7) 棚ピッチは240mmとし、中央両面書架は3段、後部書架は4段をそれぞれ確保する。
- (8) 書架の高さは全高900mm以下とし、書架最上部は前面ウインドウの上端より150mm以上低いこと。後部書架もこの高さに揃える。
- (9) 中央両面書架の両側に図書箱を設置すること。

内面高200x奥行320x幅880mm

<留意点>

- ・堅牢な材質で、図書の荷重に耐えられること。

- (10) 保安基準、運転に支障がなく点検が容易にできること。

<留意点>

- ・書棚の一部を取り外せるようにしたり、オイル漏れ等の場合でも、利用者、図書に影響が出ないようにできること。

(書架が点検口をふさいでいるので、オイルに限らず、車体のトラブル等で何か漏れた場合でも、利用者、図書に影響がでないようにする。)

## 5、放送装置

- (1) 拡声器（アンプ20w、マイク1本、スピーカー10w×2）再生装置（SDカードレコーダー搭載）を取り付けること。
- (2) 屋根に小型スピーカー（前後方向）に取り付け、雨漏り、前方の視界、耐震性を考慮すること。

## 6、車体文字

- (1) 「岡山市立中央図書館」「あおぞら号」と両側面に黒文字で入れる。
- (2) 「岡山市立中央図書館」と後部扉中央に入れる。
- (3) 現行車両と同様のラインを両側面に入れる。

## 7、その他

仕様書に記載のない事項、その他細部の確認については上記担当部署と直接協議し、後々にトラブルのないよう納車すること。

参考写真（車体塗装、車体文字、スピーカー及びミラー）

前面



背面



側面（運転席側より）



側面（助手席側より）



5 スピーカー



2の(3) 大型反射鏡



(バックモニター設置の場合は大型反射鏡不要→  
写真は一昨年度に導入した同種車両のもの)



参考写真（車体荷室、書架、荷室スペース）

4の(9) 図書箱



4の(8) 書架



3の(2) 書籍運搬箱スペース



1の(2) テーブル収納棚





特記仕様書 4  
(No12 環境事業課)

1. 道具棚

荷室に道具棚を設置する。

2. その他

詳細については、納車前に必ず現有車両の仕様を確認し、同等程度のものですること。



【参考写真①】



【参考写真②】



【参考写真③】